

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

第二回本会議

令和 7 年 05 月 14 日 (水)

(議事次第)

議題

- ・学長決定「筑波大学の学生組織等について」の改正について

タイムテーブル

当日の時刻	内容
19:43	開会
19:43~19:45	議題説明
19:45~20:30	質疑応答
20:30~20:42	採決
20:50	散会

出席者

学類等代表者 60 名 うち遅刻者 1 名 詳細省略

資料一覧

- ・学長決定「筑波大学の学生組織等について」の改正について P25002-00
- ・学長決定「筑波大学の学生組織等について」改正の提案 P25002-01
- ・筑波大学の学生組織等について P25002-02
- ・学長決定「筑波大学の学生組織等について」改正案 P25002-03
- ・筑波大学の学生組織等について P25002-04

以下、議事録

開会

○吉川 梓（議長）

これより、令和7年度第二回本会議を開会する。画面の不具合のため、手元の資料を見てもらいたい。

議題

○吉川 梓（議長）

議題説明をしてもらう。桑原さん、お願いする。

○桑原 侑（国際総合学類）

議題提出者の桑原である。

今回提出した議題は、全代会について定めている規則である学長決定の改正を学長に対して求めるものである。

改正したい点が2つある。1つ目は全代会に参加する学類等の定義に、学際サイエンス・デザイン専門学群つまりマレーシア校を加えること。2つ目は座長・副座長を廃止し、クラス代表者会議の議長・副議長に「学類の代表」という役割を一本化すること。この2点を改正したい点として挙げる。

詳しく説明する。昨年の秋に開校したマレーシア校の学生と全代会の構成員との繰り返しの交流を経て、マレーシア校の学生を全代会に組み入れて既存の構成員と同様に本会議や委員会活動に参加することで合意したというものである。2つ目（座長・副座長の廃止）については、クラス代表者会議に座長と議長という2種類の代表が存在して仕組みが複雑化していたことの解消が目的である。また、全代会とクラス代表者会議の距離を近づけることで相互交流を促進することもこの改正を考えた理由である。

マレーシア校に関する規則等の実際の改正は来年度以降になると考えている。全代会から提案して様々な会議を経て来年度以降に実現という見込みだ。それまでの間は、マレーシア校の特別委員会を設立して今後の在り方について議論したり、本会議にはオブザーバー参加のような形で全代会がどのような組織かを知ってもらったりするところから始めようと考えている。

また座長団廃止については、もはやどこの学類等の代表者会議でも座長・副座長という名称を使っておらず、そのような概念もないため、議長・副議長に統一しても問題ないと考える。

議題説明は以上である。

この会議で主に審議したいのは P25002_01 であり、P25002_02 から P25002_04 はその参考資料である。主に P25002_03 の新旧対照表を見ると具体的にどの箇所を改正したいと考えているかがわかる。

○吉川 植（議長）

議題説明ありがとうございます。

質疑応答に移る。質問がある者は手を挙げて、学類と名前を言ってから質問してほしい。

19時54分までに手が上がらない場合そのまま採決に移る。

○亀井 健多（教育学類副議長石井代理）

2点目の改正点に関して、既存の学類等代表は議長1人、副議長2人である。これに規則を合わせるということで間違いないか。

○桑原 侑（国際総合学類）

座長・副座長を廃止して、議長・副議長に統一するという案が出たのが約2年前であり、そこから2年間は試行期間となっていた。それを経たうえで、今後実際に統合するかということを問うている。現状に規則を合わせるということである。

○亀井 健多（教育学類副議長石井代理）

もう1点質問したい。

2点目の、マレーシア校を学類等代表に加えるということについて、マレーシア校の学生も常任委員会に所属してもらうことになるかと思う。オンライン参加の必要性や、言語の壁などが問題点として挙げられるが、それに関して考えていることや、変わることがあれば教えてほしい。

○桑原 侑（国際総合学類）

学類等代表は規則上、常任委員会に所属しなければならない。先ほど言ったとおり、マレーシア校の特別委員会を設け、そこでこれから議論するため、この場で明確にどうなるかをいうことはできない。可能性としては、マレーシア校に関する特別委員会を立ちあげたのちに、常任委員会とすることで、マレーシア校の学生が所属する常任委員会を作ることができると。

このように、規則上問題なくできる方法がいくつか存在すると考える。

○吉田 哲理（工学システム学類）

議長・副議長について、全代会の議長・副議長がいるにもかかわらず、学類の中でも議長・

副議長という呼称を使用すると、全代会の外部に対して説明するときに混乱を引き起こす恐れがあると思うが、それについてはどうなお考えか。

○桑原 侑（国際総合学類）

名称をどちらの方に合わせるかという議論については、3年前から行っているもので、私自身がそれについて何かしらの考えがあるわけではない。

しかし、学類等代表が所属しているのはクラス代表者会議であり、会議という組織だから、議長がいるのは必然であるということで、わざわざ座長という会議としては不自然な役職を設けるよりは議長・副議長に統一することになったのではないかと考えている。

○吉田 哲理（工学システム学類）

呼称で混乱するという点に関して、対策等があれば聞きたい。

○桑原 侑（国際総合学類）

全代会の議長・副議長は議長団としてまとめて呼ばれることが多い。一方で、現状、クラス代表者会議の議長・副議長は学類等代表と呼ばれているかと思う。議長・副議長という呼称ではなく、学類等代表・議長団というふうに言い分けることによって、混乱を避けるということも考えられる。

また、クラス代表者会議という組織そのものについては、大学の規則において名称が定義されているため、会議の名称を変えるというのは難しい。そのため、組織の代表の名称をそろえる形で議長としたのではないかと思う。

○菊田 一真（オブザーバー）

2023年度副議長を務めており、2022年度にこの議案の担当者の1人を務めた菊田である。

議長・副議長について、もともと、クラス代表者会議に議長という職が設けられていた。そのうえで、議長と座長、副座長2名という、合計4名の役職が存在していた。

ただ、全代会に出席するのは座長と副座長2名、合計3名という扱いだった。クラス代表者会議議長は全く座長団と関係がない役職で、学類によっては座長と議長が兼任されているところもあった。

そのうえで、2022年ごろに課題として挙げられていたのが、全代会とクラス代表者会議の距離が遠いということだった。そのため、実際にクラス代表者会議を取り仕切っている議長が、全代会に代表として出席し、全代会に意見を述べるべきではないかという話になった。

そのため、座長と議長を一本化し、副座長を副議長と名を改めたというのが適切な回答であると考える。

ただし、2022年度よりさらに前、座長・副座長が先にあって、議長が後からできたので

はないかという説もあるということを申し添えておく。

以上である。

○木下 溪花（社会学類議長綱木代理）

今回の議題は、座長団の名称を議長団に改めることと、マレーシア校を学長決定に入れるかという2つの大きな論点があると思う。

この2つの論点を両方とも同時に賛成あるいは反対で投票するということで間違いないか。

議長団の名称の改正には賛成だが、マレーシア校のほうは反対あるいは保留したいという意見、考えもあるかと思う。

○桑原 侑（国際総合学類）

表決をとるのは論点の両方を含めた形と認識している。

先ほど申し上げたとおり、学長への提案書自体を審議の対象としており、学長に提案する際にはマレーシア校を全代会に加えることと、議長・副議長に統一するというものを合わせた1つの書類として提出するので、審議は2つ合わせて行うということである。

○木下 溪花（社会学類議長綱木代理）

承知した。

参考までに、日本国憲法の国民投票では、いくつか改正点がある場合にはひとつずつ審議するという場合もある。今後このような場合には検討してもらいたいと思う。

○高橋 実来（知識情報・図書館学類）

P25002_01（学長への提案書）についての質問である。マレーシアと日本の時差は1時間程度あると思うが、マレーシア校の制度、例えば時間割の都合上、18時30分からの本会議等の会議への参加が難しいという場合にはどのような配慮が用意されているか。あるいはどのような検討がなされているかを聞きたい。

○桑原 侑（国際総合学類）

時差について、マレーシア校の一コマは50分であり、授業が終わるのは17時半である。そのため、オンラインで本会議に参加することは可能であると考えている。

そのような具体的な事柄については、マレーシア校の特別委員会で引き続き議論していくことになっている。

○カーニー 晴希（教育学類）

全代会は学生生活および教育に関する事項等について討議し、意見等をまとめる組織と

（「学長決定 筑波大学の学生組織等について」に）書かれている。これについてはその通りだと思うが、マレーシア校ではこの学生生活自体が筑波キャンパスの学生のそれと比べて大きく異なると思う。

そのため、同じ組織として本会議や委員会で議論を行い、意見を求めるよりも、マレーシア校に全代会のような組織を設け、日本とマレーシア双方に関係する議題においてのみ協力する方が、より建設的で柔軟な対応がとれるかと考えるが、こちらについての考え方を伺いたい。

○桑原 侑（国際総合学類）

案は十分出されたうえでこのような決定になっているが、議論を進めている者としては、そもそもマレーシア校の学生がどうしたいかというのが優先されるべきことだと、共通した認識を持っている。

マレーシア校の学生が筑波キャンパスの学生とともに全代会で一緒にやっていきたいという意見をもとにしているため、このような結論になっている。

先ほど話したような、マレーシア校の常任委員会ができれば、そこでマレーシア校について議論して、本会議で諮る事柄は筑波キャンパスにも関連する内容にするというように、分けて考えることは、全代会内部にあっても可能であると考える。

あくまで、マレーシア校の学生の意見を最優先にしたうえでの結論となっているのでご承知いただきたい。

○カーニー 晴希（教育学類）

現時点では、マレーシア校の学生がどのような形で学園祭に参加するかがはっきりしていない。その場合、例えば、本会議でよく諮られる学園祭に関するなどでは、マレーシア校の学生が本会議に表決権を得て出席したとしても、関係のない話が行われてしまうだろう。さらに、定員が増える分、開会のための定足数が増えることで、本会議の開催が危ぶまれる事態も懸念される。それについてはどうか。

○桑原 侑（国際総合学類）

議題ごとに、マレーシア校とあまり関係ないものはあると思う。

議題ごとの参加の仕方についてはマレーシア校の特別委員会とこれから話し合う中で決定していくかと思う。

細かいことについては、現時点ではあまり決まっていない。

○カーニー 晴希（教育学類）

最後に質問する。

その場合、詳細が決まっていない状態であるにも関わらず、参画させようという理念だけ

が先行してしまう。中身が伴わない改正になってしまえば、全代会組織自体が機能していくうえでの障壁になると思うので、そこについて留意してもらいたい。

○桑原 侑（国際総合学類）

マレーシア校の学生に対しても、学園祭など、筑波キャンパスだけで行っていることもあるがよいかということは聞いており、それを承知の上での参加を希望している。

また、今、筑波キャンパスの学生だけで本会議を行っているが、本会議ではある特定の学類等から挙げられた議題も審議することができる。必ずしもすべての学類に関係するものを審議すると限られているわけではない。

そのような議題に対しても、様々な視点から審議することが大事だと思うので、マレーシア校の学生が全代会に参加することもありうることだと考えている。

○藤井 新之助（国際総合学類）

マレーシア校の件について聞く。

改正によってマレーシア校の参加が決定され、学長決定に組み込まれると思うが、どこまで決定されるかということを聞きたい。

具体的には、筑波キャンパスの学類等代表が委員会に入ること、あるいはこういう権限を持っている、クラス代表者会議で話し合う権利があるとか、学長と懇談ができるなどある種の権利を持っていると思うが、マレーシア校の代表者は何人などということまで決まるのか、あるいは枠組みだけを作るということなのか。

○桑原 侑（国際総合学類）

ほとんど学類等の定義にマレーシア校を加えるだけであり、筑波キャンパスの学生と同等の権利が得られるという認識でいていただきたい。

しかし、細かいところで事情が違う。そのような事柄はマレーシア校の特別委員会などで議論していくことになると思うが、基本的には全く同等の権利を持っているという認識でいていただきたいと思う。

○藤井 新之助（国際総合学類）

では、枠組みを決めるための最初の布石ということでよいか。

○桑原 侑（国際総合学類）

そのような認識で大丈夫である。

○高橋 実来（知識情報・図書館学類）

マレーシア校の学生を全代会に加えることについて、具体的に私たちが被るメリット、デ

メリットについて聞きたい。

もしマレーシア校を全代会に入れて私たちの生産性が著しく低下した、あるいは何らかの本会議の決定の際に足を引っ張っていることが無視できない状況になった際に、除名、廃止することもあるのか。

この 2 点について聞きたい。

○桑原 侑（国際総合学類）

マレーシア校の学生を全代会に参画させることのメリット、デメリットについて。メリットについては、国際特別委員会が設置されていることからもわかるとおり、全代会は国際化を進めている。その一環としてもマレーシア校の学生を加えるというのはかなり大きなインパクトある事業になると考える。

デメリットについては、たびたび言われることかもしれないが、やはり事情が異なるのでコミュニケーションがうまくいかないことも考えられるかと思う。しかし、同じ筑波大生として全代会という一つの組織で同じ立場で話し合えるというのは有益なことだと考える。

参画によって生産性が著しく低下した場合にその参画を取り消すことはありうるのかという点について、今回この本会議の場で学長決定の改正を学長に提案するわけだが、それと同様にもう一度変更することを提案することは可能である。最終的に決定するのは学長であるが、そういった提案を出すことは不可能ではない。

○森 望（社会学類副議長中村代理）

マレーシア校について、マレーシアと日本であれば時差は 1 時間だが、もし将来的に別の場所にさらに分校ができた場合、この時差の問題はより深刻になるかと思う。大学にそのような構想があった場合、今の流れでその新たな分校も同様に加えることが不可能な場合も考えられる。そのように、将来的に分校が増えるかという点について大学に確認はしているか。

○桑原 侑（国際総合学類）

少なくとも、私はそのような大学の新しい分校を作るというような構想を把握していない。しかし、今回マレーシア校を加えるということについて議論しているため、そのような別の事案が発生した場合にはその時の全代会が話し合うことになると思う。将来の可能性については私から話すことは難しい。

○森 望（社会学類副議長中村代理）

その場合、マレーシア校については承認したにもかかわらず、ほかの分校ができたときにそれは承認されないということがあれば、将来に禍根を残すかと思う。

もう一つ質問をする。カーニーさんが少し触れていたと思うが、筑波とマレーシア校でそ

それぞれ全代会のような組織を持ち、共通の議題に関してのみ合同で議論するという案は以前から提案していた複数の選択肢に含まれており、その中で今回のマレーシア校を単純に加えるよりもこちらの方がいいという意見も多くあったかと思う。その中で、今回の議題の形になった経緯があれば説明をお願いする。

○桑原 侑（国際総合学類）

経緯について話す。全代会では、海外研修や複数回のオンライン交流会も行っているが、その中で、マレーシア校の学生が全代会とどのように関わりを持ちたいかということを探ってきた。そのように意向を確認する機会を設ける中で、彼らが筑波キャンパスの学生と同様に全代会の本会議や委員会に参加したいと考えていることが明らかになった。そのような話し合いに参加している全代会側の学生として、マレーシア校の意向を最優先に尊重するという意識があり、今回提案している通りになった。

○趙 海清（比較文化学類副議長鈴木代理）

座長・副座長の廃止に関して、1点、指摘したいことがある。現状、比較文化学類では、座長と副座長を廃止して、それを議長・副議長に統合する形でクラス代表者会議と全代会の活動を行っているが、今年度は特別な事情があり、2人の副議長のうち1人がクラス代表者会議から離脱した。

そのため、比較文化学類では全代会に出席するメンバーも2人のみとなっているが、座長・副座長を廃止すればこのような問題が生じる可能性がある。

この問題についてはどのような対応を考えているか。

○桑原 侑（国際総合学類）

それぞれの学類で事情があると思う。実際、人文学類など、クラス代表者会議の中で様々な事情を抱えている学類もあるが、そのような問題に関しては、学長決定とその下の副学長決定という全代会の具体的な活動について定めた規則がある。そこには「すべての会議は運営内規を制定できる」と書かれており、学類のクラス代表者会議内で個別に規定を設定することができる。そのようなものを活用することで制度の中で議長代理のような形をとっているところもあるが、うまくやっていけると考えている。

○栗原 さくら（地球学類）

これまでに、マレーシア校の学生が本会議などにオブザーバーのような形で参加したことはあるか。

○桑原 侑（国際総合学類）

マレーシア校は昨年度の秋にできたばかりであり、準備が整っていなかった。全代会がマ

レーシア校の学生とともにやっていこうという動き出しがあまり早くなかつたため、現状オブザーバー参加等はできていない。この学長決定が施行されるのは来年度になるので、それまでに全代会を知ってもらうために、本会議のオブザーバー参加など具体的に進める話し合いをする。

○栗原 さくら（地球学類）

もう一つ質問したい。そのオブザーバー参加などによって、（マレーシア校の学生を）学類等代表として加えるという決定がまた変わる可能性もあるか。

○桑原 侑（国際総合学類）

もしここで承認されれば、議題は大学の執行部の会議にかけられる。想定と違うことがあればその過程で学生として意見を伝え、参考意見としてもらうことは可能だと考えている。

○菊田 一真（オブザーバー）

先ほど言い忘れたことを改めて申し上げる。先ほどの 2022 年度の話について、2022 年度に提出されたクラス代表者会議議長団について改正を提案する議案は全代会において可決されている。そのため、全代会から学長、副学長に提出はされている。しかし、学長決定としては未だ改正が行われておらず、また、2 年後に見直すという点に関しても実際に規則に盛り込まれているわけではない。つまり、議長・副議長に切り替えたことは一度もないというのが大学側の解釈となる。

そのため、現在全代会やクラス代表者会議で行っている運用は従来の座長・副座長の規則に反しない範囲で座長を議長、副座長を副議長と呼ぶという運用を行っており、クラス代表者会議の議長が座長を兼任することを全代会からお願ひしている。

ただ、例外として現在の状況はわからないが、人文学類のみ、申し合わせにおいて無期限で座長と議長を別のものとすることができるとしており、例外として人文学類のみ議長以外が学類等代表を務める場合があるということになっている。

以上だ。

○近藤 拓未（オブザーバー）

先ほどの森さんの別の組織を立てた方がいいのではないかという質問について前議長より補足する。昨年度の副学長懇談会などでもマレーシア校との学生組織の協力の仕方について議論を行った。大学の組織とも協議した結果、全代会としてはマレーシア校も筑波大学の一部なので、マレーシア校にある学群もほかの学類等と区別せずに入れる方がいいのではないかと考え、そのうえで副学長等との懇談会にて共有を行った。補足は以上だ。

○吉川 植（議長）

時間となったので質問を締め切る。
表決に移る。

表決の手続きについては省略

表決結果は、賛成 38、反対 5、保留 12、棄権 5 となった。よって、本議案は賛成、反対の両方が半数に満たないため保留された。

委員会報告

○原田 晃（総務委員会委員長綱木代理）

5月9日（金）に初回ミーティングを開催した。次のミーティングは5月16日（金）に行う。

第1回本会議の第1日程の短報を公開した。ホームページから確認してほしい。

○原田 晃（総務委員会情報部門）

情報共有ツールの講習会への協力ありがとう。使用したスライドを共有しているので参考してほしい。

情報共有ツールや Teams に追加されていない人がいれば情報システム関連の問い合わせチャネルに連絡してほしい。

○柿沼 陽菜美（学内行事委員会）

第1回ミーティングを行った。学園祭の実行計画書関連の校閲を始めていきたい。

また、学類新歓関連の校閲についても並行して進めていきたい。

○カーニー 晴希（教育環境委員会）

5月9日（金）に第1回ミーティングを行った。5月16日（金）も行う。

BRIDGE について話すので、興味がある人がいれば参加してほしい。

○桑原 侑（生活環境委員会）

宿舎班では昨年度行った宿舎アンケートの回答をもとに意見をまとめている。

福利厚生班では2B棟のセキュリティの件について議論を進めており、5月28日（水）に教育環境委員会とリスク安全管理課の方と話す予定である。

教育生活環境調査に寄せられた意見への回答を進めている。

最後に、生活環境委員会主催で全代会ツアーのようなものを行う予定である。お知らせを近いうちに流すのでぜひ参加してほしい。

○足立 美空（調査委員会）

5月12日（月）にミーティングを行った。来週も参加してほしい。

○龍 茂花（広報委員会）

5月12日（月）に初回ミーティングを行った。Web記事の製作に着手している。次回のミーティングは5月19日（月）である。

○趙 溢鈞（国際特別委員会）

5月15日（木）にミーティングがある。今年の秋新歓 Tsuku・Koi というイベントが動き始めた。

○澁谷 耕大（情報処理推進特別委員会）

5月13日（火）に初回ミーティングを行った。新入生を迎える、今年どんなプロダクトを作るか検討した。

UNTIL.LT #0x07は5月17日（土）に行われる。情報処理推進特別委員会は筑波大学の情報系技術者をつなぐコミュニティ UNTIL.を運営しており、UNTIL.LTはそのショートプレゼンテーション大会である。新入生は無料で参加できるので興味があれば参加してほしい。

○松本 明香里（新入生歓迎特別委員会）

学園祭実行委員会と学類オリエンテーションに関する振り返りのミーティングを近々行う。

新入生歓迎特別委員会に配属希望調査を出された方は、実際の動き出しが10月以降を予定している。かなり先になるが、覚えていてほしい。既存構成員はできれば春学期中に一度ミーティングを行いたい。日程等が決まれば知らせる。

○吉川 植（議長）

本日、令和7年度の議長団が決まったので、1年間よろしくお願ひする。皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っている。

次回の本会議は6月11日（水）の18時半からだ。場所は未定だが後日連絡する。

これにて第二回本会議を散会とする。

散会

以上 総務委員会 作成